

IV 財政計画

| | |
|------|---------|
| 財政の姿 |97 |
|------|---------|

IV 財政計画

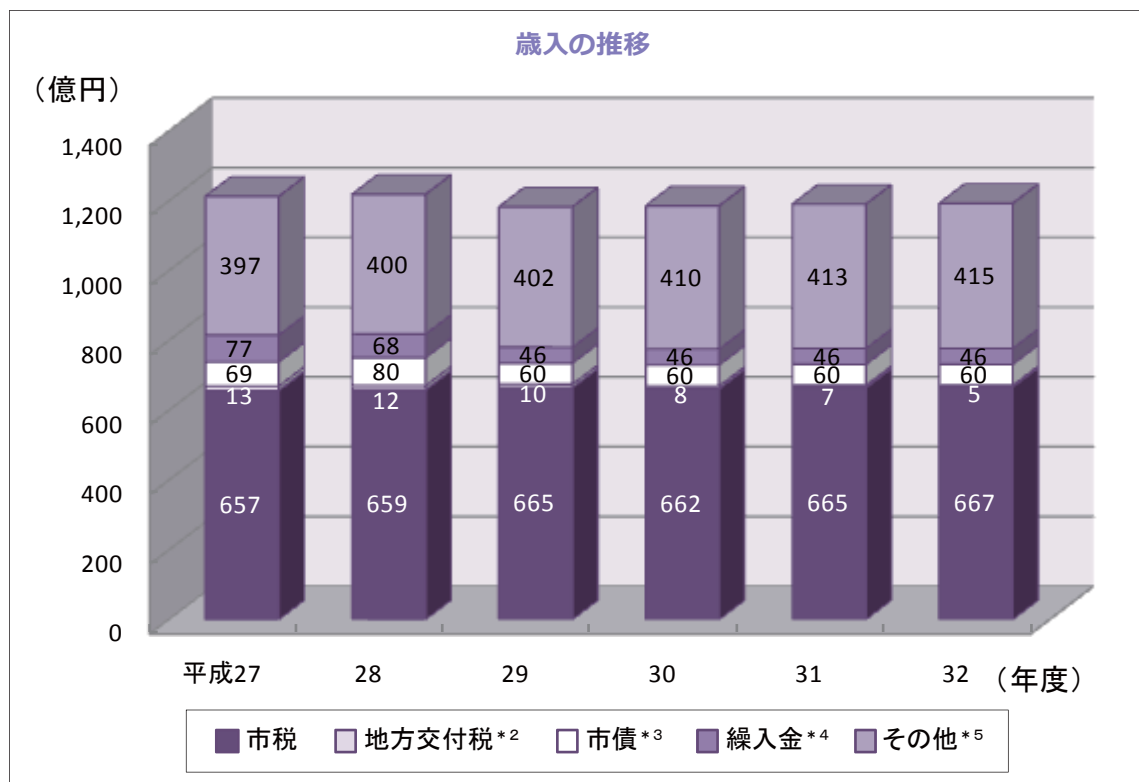
財政の姿

本市ではこれまで堅実な財政運営を行っており、その結果として健全化判断比率などの財政指標は良好な結果を示しています。そして、平成27年1月には総務省から地方公会計のより一層の推進を図る旨の要請があり、今後本市においても固定資産台帳を整備した上で、新たな統一的な基準による財務書類を作成・公表し、ストック情報を含めた自治体財政のさらなる「可視化」とこれらを活用した財政運営が求められています。

従来からの財政指標に加え、このような新たな財務情報を財政運営に十分に活かし、今後も引き続き財政基盤の強化による安定的な市税^{*1}収入の確保と公共サービスの厳選による歳出の抑制を図り、健全な財政運営に努めます。

(1) 歳入の見込み

我が国の景気は緩やかな回復基調が続いており、物価の動向もデフレ状況からの脱却が見込まれています。本市においては、固定資産税は今後も継続して安定的な収入が見込めますが、個人市民税は景気の緩やかな回復が見込まれるものの大幅な増収は見込めず、また、法人市民税は国の税制改正により減収が見込まれており、市税全体での大幅な増収は見込めない状況にあります。さらに、国や県の財政状況も悪化しており、その動向に留意する必要があります。

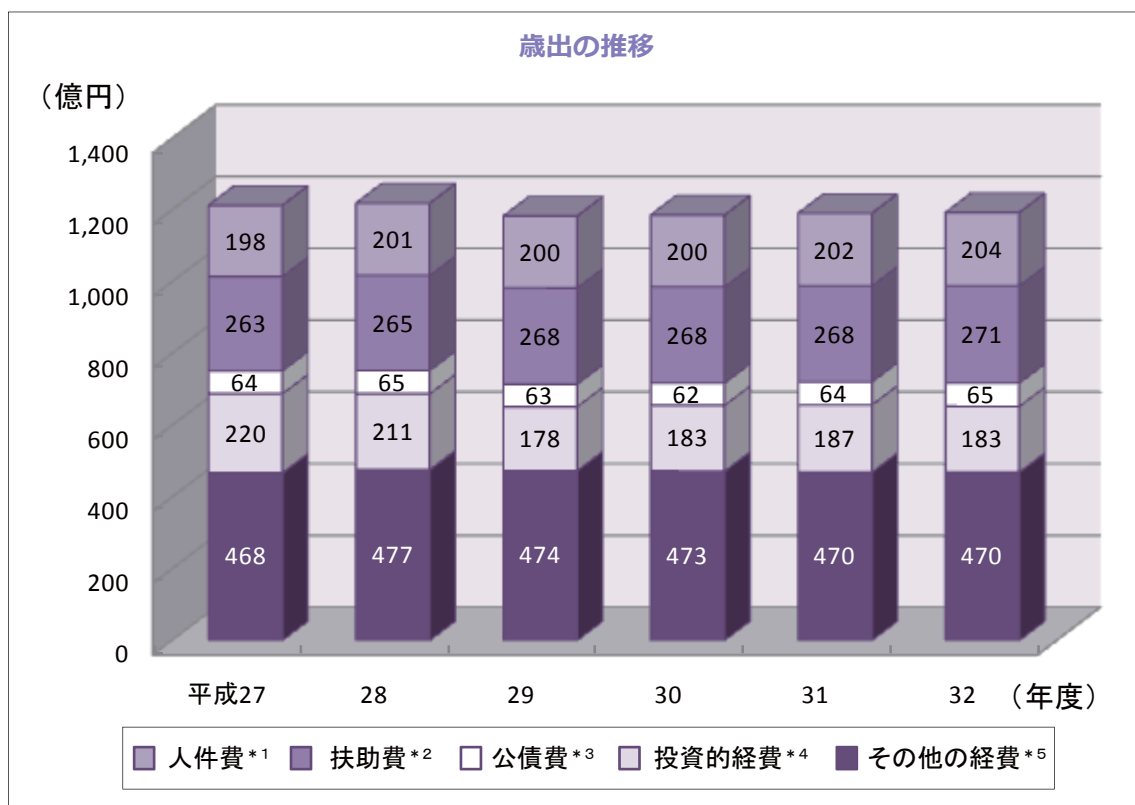


*1 市税：個人・法人市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、事業所税、都市計画税など
 *2 地方交付税：地方公共団体が等しくその行うべき事務を遂行できるように一定の基準により国が交付する税
 *3 市債：投資的経費などの財源として市が借り入れる借金
 *4 繰入金：財政調整基金や各種特定目的基金（家計でいう貯金に当たるもの）からの取崩しなど
 *5 その他：譲与税や交付金、国県支出金、市の公共施設の使用料、住民票の発行等に係る手数料など

(2) 歳出の見込み

社会保障関連経費については、少子高齢化の進展による老年人口比率の上昇に伴い、緩やかになりつつあるものの依然として増加の傾向にあります。また、公共施設の老朽化が進んでおり、今後は長寿命化のための保全整備に係る費用の増加にも留意する必要があります。

一方で、第6次総合計画の重点プロジェクト、社会基盤整備、災害対策などの推進を図り、夢ある次の新しい岡崎に向けて様々な課題に取り組む必要があるため、引き続き歳出削減を図り、限られた財源を効果的・計画的に活用することに努めます。



*1 人件費：職員の給与などの主に人に係る経費

*2 扶助費：生活保護費、障がい福祉サービス費、医療助成費などの主に福祉に係る経費

*3 公債費：過去の市債の返済に係る経費

*4 投資的経費：市の公共施設や道路の整備などの将来資産として残るものに係る経費

*5 その他の経費：物件費等の事務的経費や施設の管理運営経費、特別会計及び企業会計への繰出金など